

IV. 神道文化学部

神道文化学部は、神道を中心とする日本の伝統文化の理解及び修習並びに内外の諸宗教及び関連する宗教文化の分析と比較を通して、国際化され情報化された現代社会の発展に寄与し社会の健全な形成に貢献する人材を育成することを目的とする。

神道文化学部神道文化学科の履修について

卒業に必要な 最低単位数

本学に4年（8学期）以上在学し、所定の単位を修得すれば卒業と認定し、神道文化学部にあつては、学士（文学）の学位が授与される。ただし、1～4年の各年次に1学期以上在学することが必要である。卒業に要する単位数は下表のとおりである。

学 科 授業科目	神道文化学科	備考
教養総合科目	36 単位以上	
専門教育科目	64 単位以上	
合 計	124 単位以上	

注) 教養総合科目、専門教育科目から上の表のとおり単位を修得し、合計 124 単位以上修得すること。

進 級 条 件

進級の時期は各年度の始めとする。進級するには、各年次において1学期以上在学することが必要である。また、2年次から3年次への進級には2年次終了までに3学期以上在学し、卒業に要する単位で次の条件を満たしていなければならない。

教養総合基礎科目群の必修外国語2単位、スポーツ・身体文化IA・IBの2単位、専門基礎科目の神道文化基礎演習2単位を含む34単位以上を修得すること。

フレックスコース

フレックスコースの変更はできない。

履 修 規 程 (受講キャンパス)

■フレックスA〈夜間主〉コース：
教養総合科目の必修外国語、スポーツ・身体文化IA・同IB、専門教育科目の専門基礎科目は渋谷キャンパス夜開講時間帯で受講する。その他の科目については、両キャンパスのすべての授業時間帯で受講できる。

■フレックスB〈昼間主〉コース：
教養総合科目の基礎科目群のうち、1年次開講必修科目を横浜たまプラーザキャンパス、2年次開講必修科目を渋谷キャンパスの昼開講時間帯で受講するが、それ以外の教養総合科目は両キャンパスのすべての授業時間帯で受講できる。専門教育科目（一部選択科目は除く）については渋谷キャンパスでのみ開講される。

年次別履修単位 制限 (CAP 制)

年次別に登録できる単位数が制限されているので、年次別の枠を超えて履修することはできない。(P4 参照)

1. 神道文化学科

神道文化学部神道文化学科には学科内コースとして「神道文化コース」「宗教文化コース」の2コースがあり、それぞれにふさわしい授業科目群を1年次から配置している。これは学生の関心に応じて主体的に履修科目を選択するための緩やかなコース区分であり、どちらのコースを選択しても他方の授業科目群を履修することができる。コース選択は3年次前期の履修登録時に確定し、これ以降は変更できない。

カリキュラムの
構成と履修方法

神道文化学科専門教育科目の構成とその履修方法は、次のとおりである。

専 門 基 礎 科 目		20 単位	必 修
基 幹 講 義 科 目	神道文化科目群	6 科目 12 単位 ^{注1)}	選 択 必 修
	宗教文化科目群		
基 幹 演 習 科 目	神道学演習・宗教学演習 ・神道史学演習	2 科目 8 単位 ^{注2)}	選 択 必 修
展 開 科 目	神職基幹科目群	16 単位以上	選 択
	神道社会实践科目群		
	宗教文化科目群		
	伝統文化科目群		
選 択 科 目	基幹講義・基幹演習 ・展開科目の超過分	8 単位以上	選 択
合 計		64 単位以上	

注 1) 下記の 3) を参照。

注 2) 67 ページ「基幹演習科目および演習論文について」を参照。

- 1) 専門教育科目の科目・開講時期・単位数・開講学年については、次ページ以降を参照すること。
- 2) 1 年次開講の専門基礎科目「神道文化基礎演習」はフレックス A コース・フレックス B コースともそれぞれ複数講座が開設されるが、学生はクラス別編成により指定された講座を受講しなければならない。
- 3) 基幹講義科目・展開科目のうち、下記の科目は I または A を修得していないと II または B を履修することはできない。
祭祀学 I・II、神道思想史学 I・II、古典講読 IIA・IIB、古典講読 IIIA・IIIB、祝詞作文 I・II、神社祭祀演習 I・II、神社祭式概論 I・II、神社管理研究 I・II、宗教行政研究 I・II、神道と武道 I・II
- 4) 「神社祭祀演習 I」「同 II」の履修に際しては、授業開始までに次の用具を準備すること。
白衣、白襦袢、白帯、白袴〔女子は女子用のネジマチ仕立の袴〕、白足袋 (2～3 足)、笏〔女子は扇 (ボンボリ)〕
- 5) 基幹演習科目の履修方法については、67 ページを参照すること。
- 6) 神職資格 (明階検定合格正階授与) 取得希望者は、158 ページを参照し、神職課程の履修規程に従い、受講すること。なお、次頁からのカリキュラム表の「神職階位取得に必要な科目」において、当該科目を示している。
- 7) なお、本学では明階総合課程を開講している。この課程は 4 年次からの受講となるが、別に設けた条件を 3 年次終了までに満たし、受講を認められた者のみ受講可能となる。受講を希望する者は、160 ページを参照すること。

教養総合科目・
神道科目の受講
に関する注意

教養総合科目のうち、神道科目に配置されている科目については、83 ページに記載しているとおり、神道文化学部の学生が受講する場合は選択となるが、卒業要件単位に算入できるのは 2 講義題目 4 単位までと規定されている。また、教養総合科目の単位を専門教育科目の単位として流用することも一切できないので、受講にあたっては注意すること。

	授業科目	開講	単位	開講学年				備考 (卒業に必要な単位)	神職階位取得に必要な科目			明階 総合 課程 14単位	年次別履 修単位制 限の枠外	
				1	2	3	4		必修	列ごとに下記単位数分取得				
										4単位	4単位			16単位
専門基礎科目	神道概論	通年	4					20単位 必修						
	神道史学	通年	4											
	古典講読	通年	4											
	宗教学	通年	4											
	神道文化基礎演習	半期	2											
基幹講義科目	神道文化科目群	祭祀学	半期	2				6科目12単位 選択必修						
		祭祀学	半期	2										
		神道神学	半期	2										
		神道神学	半期	2										
		神道史学 A	半期	2										
		神道史学 B	半期	2										
		神道思想史学	半期	2										
		神道思想史学	半期	2										
		古典講読 A	半期	2										
	宗教文化科目群	古典講読 B	半期	2										
		国学概論	半期	2										
		国学概論	半期	2										
		世界宗教文化論	半期	2										
		世界宗教文化論	半期	2										
		日本宗教文化論	半期	2										
		日本宗教文化論	半期	2										
		宗教考古学	半期	2										
		宗教考古学	半期	2										
基幹演習科目	宗教社会学	半期	2					1科目4単位						
	宗教社会学	半期	2											
	神道学演習	通年	4					1科目4単位						
	神道学演習	通年	4											
	神道史学演習	通年	4											
	神道史学演習	通年	4											
展開科目	神職基幹科目群	古典講読 A	半期	2				展開科目より 16単位						
		古典講読 B	半期	2										
		祝詞作文	半期	2										
		祝詞作文	半期	2										
		神社祭祀演習	通年	2										
		神社祭祀演習	通年	2										
		神社祭祀演習 A	半期	2										
		神社祭祀演習 B	半期	2										
		神社祭式概論	半期	2										
		神社祭式概論	半期	2										
		神社管理研究	半期	2										
		神社管理研究	半期	2										

次ページに続く

	授 業 科 目	開 講	単 位	開 講 学 年				備 考 (卒業に必要な 単 位)	神職階位取得に必要な科目			明階 総合 課程 14単位	年次別履 修単位制 限の枠外	
				1	2	3	4		必 修	列ごとに下記単位数分取得				
										4単位	4単位			16単位
展 開 科 目	神道社会実践科目群	神社ネットワーク論	半期	2										
		神社ネットワーク論	半期	2										
		神道教化概論	半期	2										
		神道教化概論	半期	2										
		宗教行政研究	半期	2										
		宗教行政研究	半期	2										
		神道と国際交流	半期	2										
		神道と国際交流	半期	2										
		神道と環境	半期	2										
		神道と環境	半期	2										
		神道と情報化社会	半期	2										
		神道と情報化社会	半期	2										
	宗教文化科目群	教派神道研究	半期	2										
		教派神道研究	半期	2										
		キリスト教文化研究	半期	2										
		キリスト教文化研究	半期	2										
		仏教文化研究	半期	2										
		仏教文化研究	半期	2										
		中東文化研究	半期	2										
		中東文化研究	半期	2										
		東アジア文化研究	半期	2										
		東アジア文化研究	半期	2										
	伝統文化科目群	宗教芸術研究	半期	2										
		宗教芸術研究	半期	2										
		宗教音楽研究	半期	2										
		宗教音楽研究	半期	2										
		神道と武道	半期	2										
		神道と武道	半期	2										
	選 択 科 目	神社実務演習	通年	2										
		祭祀学特殊講義	半期	2										
神道教学特論		半期	2											
神道教化システム論		半期	2											
神社祭式特論		半期	2											
神社管理特論		半期	2											
現代時局論		半期	2											
日本史概論		半期	2											
東洋史概論		半期	2											
西洋史概論		半期	2											
倫理学 A		半期	2											
倫理学 B		半期	2											
心理学 A		半期	2											
心理学 B		半期	2											
憲法		通年	4											
社会経済学入門		半期	2											
政治学概論		半期	2											
哲学概論 A		半期	2											
哲学概論 B		半期	2											
社会学 A		半期	2											
社会学 B	半期	2												
国際法の基礎	半期	2												
国際紛争処理法	半期	2												
国際政治 A	半期	2												
国際政治 B	半期	2												
社会保障の基礎	半期	2												
少子高齢社会と社会保障	半期	2												
								展開科目より 16単位						
								基幹講義科目・基幹演 習科目・展開科目の超 過分および選択科目か ら8単位以上						

で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

神職階位取得に必要な科目は、 が必修、 が選択必修を示す。また、 は明階総合課程に必要な科目を示し、卒業要件単位に算入することはできるが、明階総合課程の単位として認定されるには、受講許可を受けていなければならない（P160参照）。

2. 基幹演習科目及び演習論文について

基幹演習科目の趣旨・目的

神道文化学部生は2年次までに、神道を中心とする日本の伝統文化や関連する内外の宗教文化についての基本的な理解を得、また研究視点や研究法の基礎を身につけることとなっている。そして3年次からは、各自の主体的な関心にもとづいて学修研究を進めていくことになる。その中心的な場となるのが、3・4年次に履修する基幹演習科目である。

演習では、担当教員の指導を受けながら、各自が研究計画を立て、調査、資料収集を行って分析、考察し、その成果を発表する機会が与えられる。また、発表や他の受講者との討議を通じて、互いに問題関心を共有しつつ、研究を深めていく。受講者自身の積極的な参加が求められる。

3年次には、主として研究法や論文作成の基礎を学び、6,000字以上の中間リポートの作成に取り組む。

4年次には、12,000字以上の演習論文を作成し、4年間の大学生活の集大成となる研究成果をまとめあげる。

なお、1・2年次のうちから、テーマの選定や希望する指導教員の情報などに留意するとともに、各教員の専門分野を参考にしてやや広めのテーマ設定を心がけてほしい。

基幹演習科目 の履修方法

- 1) 選択必修の基幹演習科目に充当する2科目8単位については、3年次に演習Ⅰを、4年次に演習Ⅱをそれぞれ1科目4単位ずつ履修しなければならない。
- 2) 原則として、同一教員の演習を3・4年次に連続して履修すること。
- 3) 3年次に演習Ⅰを修得できなかった場合は、4年次に演習Ⅰと演習Ⅱを並行して履修することができる。
- 4) 上記1)に示した履修科目数・単位数を超えて履修しようとする場合、演習テーマが異なれば、同一年度に複数の演習を履修できる。

演習論文の 指導教員

演習論文の作成指導と評価は、4年次に履修する演習Ⅱの担当教員が行う。

演習論文の 指導計画

授業開始時に指導教員から、以下のような項目について年間の計画が示される。

- ・ 題目の提出
- ・ 中間発表、または中間リポート提出
- ・ 最終提出期日、および提出先

いずれも所定の期日を厳守して、計画的に論文を完成させること。

論文の用紙なら びに枚数・体裁

作成方法	文字方向	用紙	1枚の文字数	枚数(ページ数)
手書き	縦書き	B4判 原稿用紙	400字詰 (20字×20行)	30枚(中折り・裏表60ページ)以上
	横書き	A4判 原稿用紙	400字詰 (20字×20行)	30枚(30ページ)以上
パソコン使用	縦書き	A4判横向き またはB5判 横向き無地	1200字	10枚以上
	横書き	A4判縦向き またはB5判 縦向き無地	1200字	10枚以上

以上の体裁で作成した論文に所定の表紙をつけて提出する。表紙の様式については提出する年度の授業時に指示する。